保姆養成所の問題

保育報國の念に燃えて、本號の大部をこの問題の爲に盡す事に致し、全國各地の保姆養成所宛てこの問題に就ての御意見を伺ひましたところ、學年末、學期始の御多忙の折柄にもかゝはらず、左の諸先生方の尊い御玉稿をいたゞく事が出來ました。一つ々々拜見して、この問題についての重大なる示唆を受けないでは居られません。御寄稿いたゞきました諸先生方に對し厚く御禮を申上げます次第でございます。（氏名イロハ順）

筵一枚で保育する人
これぞ日本の現に求むる人

平安女學院專攻部保育科　早川喜四郎

幼兒の教育が本當になされるなら日本はます〳〵スバラシイものになる。それだけ其の逆もまた眞である。おろそかに、歪められて幼兒が教育されるなら――想ふだに寒心である。このことは實にアタリマへすぎることながら、しかしアタリマへすぎるほどアタリマへである故に、國運が一にかゝつて幼兒の教育にあることを云つても、決して大袈裟すぎはしない。私はよく保姆方にまた保育科生達にまた母達に此の事を言ふ。そして「保育報國」をおもふいま、ます〳〵此の事を世の凡

ての人々に折あるごとに言はうとおもふ。世の多くの人々は餘りにも幼兒の教育を粗末にしすぎてゐる。幼兒を愛さないとは云はない、しかし本當に愛してゐるだらうか、否々といふ聲があつて私の心耳にひゞく。こゝにも私はイエスの御言葉を想ひ出す、『幼兒らを許せ、我に來るを止むな』これは、大人の心づかひから幼兒の其の『天國は斯のごとき者の國なり』の天性があやまられようとした時の御言葉であつたのである。

○

保姆の方々に、若しくは保姆科などの生徒達に私のまたよく云ひ〳〵することがある。それには、「自信に燃えよ、使命に誇れよ」といふことである。搖籃は世界を搖り動かすといふ、其の搖籃をまづゆするものは保育者、おんみたちである故である。事が正しく順序だてられてゐるなら、先生と呼ばるゝ社會的地位の中でも、大學の先生よりも中等學校小學校の先生よりも、はるかに〳〵重大視せられたる地位を保姆方は與へられねばならぬ、否、得ねばならぬ。ねがはくば、教養なり報酬なりの點で、大學の先生以上でありたい、さういふ地位が與へられるやうに世の中が美しくなることを望む——しかし人は夢であるかに此の願ひを輕くあつかふかもしれない、そこで私は「得よ」「得ねばならぬ」と申すのである。大學の教授が少々まちがつてゐても、その學生等はそれをひとりでに正してゆく。しかし幼兒がまちがつて導かれ、歪められ傷つけられるなら、あとを如何するのです。とりかへすことは絶對に出來ないのである。保姆達よ、保育科の學生達よ、此の保育者——人類と世界との保育者であることを、此の使命を尊くも敬虔に誇られよ、自信をもて愛敬せられよ。想へば、如何に尊重し、如何に謙遜し、如何に愛敬しても、なほ〳〵足りすぎぬほどのことではあるまいか。それには先づ自信を自ら得られよ、先づ自ら自重せられよ。社會の報ゆるところについて兎や角と小言を思ふ暇あらば、まづ自己の保育者としての使命を自ら拜されよ。

○

私のしば〳〵見て而も思はせられることは、保育の實際家、學習者等が、研究せざるにはあらざるもしかし根の研究がおろそかにせられがちではあるまいか、といふことである。枝葉のこと固より大切、リソウは良くとも泣く園兒ひとりをもてあつかひかねるでは問題にもならないが、現に保育のことに當られてゐる保姆の方々、また今保育のことを勉强してをられる人々に接する時、また保育會、保育研究會などに出席する時、言ひ古されて而も漠然たる申し方ながら、「根」のことに關心をモット〳〵〳〵向けていたゞきたいナと、痛切に思はざるを得ない。

それに、其の根を握つてゐて、イザといふ時、あの「スタンツの馬鹿者」「チューリンゲンの馬鹿爺さん」の如く馬鹿になつて、筵一枚持つて、お社ならお社の境內で、托兒所などをグン〳〵開ける人になつていたゞきたい、之が、まさしく保育報國的現下の切願である。日本に子供は多い、しかも幼稚園に可愛らしく裝はして通はせられる子供等の何倍何十倍何百倍の子供等が——「日本の寶」よ——放任のまゝに放置せられてゐるか。(そして如何に多くの惡の芽がそこからまたわくことか!)さしあたり、世界の平和のために立つ我等の日本が如何に多くの試練の暴風の中をぬけきつてゆかねばならぬかは、モウ定つてゐることである。その「さしあたつてに伴なふ」の幼兒問題にせよ、また「次の時代」の用意のためにせよ、深く考へられ、正しく把握せられ、周密妥當に用意せられたる、保育者の活動の如何に多くが要求せられをることよ。そして更に「名譽もいらず金もいらぬ」南洲翁のいはゆる「大馬鹿者」の保育者の如何に多くが、叫びを以て待たれつゝあることよ。

(二月二十四日京都)